



やまなし

第70号 2009年3月12日(年3回発行)

巻頭言

眼からウロコが落ちた時

帝京科学大学 近藤 知子

薄暗がりの中でボヤけていたものが、急にはっきりと輪郭をもつ。腑に落ちなかったことが、突然、腑に落ちる。1995年冬、冬のサッポロで私は、そのような経験をしました。急の都合で予約をキャンセルせざるを得なかった知人の代わりに偶然参加した作業科学セミナーですが、それが私の作業療法士人生、というか人生そのものを大きく変えることになりました。

「西洋文化では、合理性や芸術性には重きがおかれてきたが、平凡なものは、価値が低いとみなされ、そこにある複雑性や重要性が十分認識されては来なかった。」「自然科学の著しい発展に凌駕された近代史において、数字や論理的思考に沿わないもの、例えば、“人生”や“生活”の領域は、日の目を見ることできなかった。」このように私が記憶する、

南カリフォルニア大学主任教授のクラーク先生と、現在は引退されて名誉教授となっているゼムケ先生の講義は、西洋史や科学史、西洋哲学にも触れるものでした。

セミナーでの講義は、「なぜ、作業療法が医療の中で不当に低い地位に置かれているのか、なぜ私達は科学的ではないと言われるのか、そして、私達は一体全体何の専門職なのか。」という、私が作業療法士となって以来10年以上抱えてきた疑問に答えを差し出すものでした。複雑な機器を駆使する他の医療に比べて作業療法が「たいしたことがない」ように思われることや、作業療法の効果提示がなかなかはっきりできない事の裏には、このような歴史的背景があったのだと…。

しかし、この気付きは同時に、作業療法が、実は、これまで十分に注目を浴びることのなかった「普通さ」「平凡さ」の中に潜む、力動性、複雑性、偶然性というものに挑戦していること、そして私達が抱える不全感、私達が歴史の流れの最先端にいるが故にあるのだということ、感じさせるものでした。「普通さ」「平凡さ」を築き・保つための、人間・生物・自然の「力」は、現在さまざまな学術領域で益々注目を浴びていますが、私達作業療法士は、100年も前からその価値を見抜き、専門的に用いてきたのです。セミナーで視野が開けたように感じた私は、南カリフォルニア大学で作業科学を更に学ぼうと決意しました。

もくじ

1p	巻頭言
4p	身障だより
6p	老健だより
7p	精神科だより
8p	活動報告
9p	活動紹介
11p	Book Watching
12p	理事会だより
13p	広告
16p	各種申請書変更のお知らせ
	・編集後記

南カリフォルニア大学では、10年に及ぶ年月を費やしましたが、その間、私が得た最も大きな収穫は、「作業」という作業科学の基盤である視点を身につけた事にあるかもしれません。多くの作業療法士の方が、買い物をしたり、テレビを見たりして、ふと、ああこれは明日の治療に使えるかもしれない、とか、これは将来何かに役立ちそうだと感じた経験があると思います。これは「作業療法士の視点」が自分の生活の視点の中に深く入り込んで一体化しているから起こる事なのでしょうが、それと同じように、「作業」という視点が、私の中に根付いたという事です。

例えば、私は時々、私自身を「作業」という視点で見ます。私が作業療法士という仕事を自分の生活の糧とする作業に選んだ背景には、私の両親が共に医療職についていたことに影響されているに違いありません。医師である父は、古くからある薬局の長男に生まれ、母は、祖母が幼い時に母親を亡くした経験から手に職をつけるよう教えられたことから、栄養士の仕事を選んでいました。この2つの異なる家族の作業への価値観が、私の中に流れ込んだわけです。しかし、私が作業療法士という仕事にたどり着いたのは、高校の時たまたま読んでいた受験雑誌に、当時ごく珍しかった「作業療法」という言葉と「医師に並び立つ」という言葉を見つけたからでしょう。こうしてみると、人がある作業に従事するまでの過程には、驚くような必然性と偶然性があります。

作業の視点は、身の回りに起きている社会現象にも向けられます。例えば私は、「少子化の時代の中で、女性はどのような作業に囲まれ、子育てという作業にどのような価値観をもち、また、どのような作業をしたいと望んでいるのだろうか...」、「犯罪を犯す人たちの現在の生活、そして過去の生活は、どのような作業で構成されていたのだろうか...」、「派遣社員はどのような生活をしているのだろうか？仕事の内容は？生活や仕事にどのような価値観を見出しているだろうか？正規社員の持つ生活・人生、仕事への価値観とどのように違うのだろうか...」等、その人達の作業と、そこにある思いを知りたいと感じます。社会の動向とともに現れるこのような現象は、私達一人ひとりが行う日々の作業やその背後にある価値観により作り出され、そしてその社会の動向がまた、私達の日々の作業に大きく影響を与えます。

作業科学の学びから得たもう一つの収穫は、「文化」という視点です。作業療法士として日本にいた時の私は、作業療法に関連する様々な欧米の書物の中に、腑に落ちない点があるのを感じていました。例えば、目標の達成、自立、自主性、意味の重視など。私は本当にはっきりした目標があって、その目標を達成すべく、一つ一つの過程を積み重ねて生きているのだろうか...、人は本当に自立しているのか、自立したいのか...、自立とは何だろう...。何かの作業をするときに、私は、はっきりとした意志を持ち、それに伴う意味を感じ取っているのだろうか...。

作業に関心をもつ異なる文化の人達と話を進めるうちに、英文で書かれた文献や書物に当然のものとして現れるこれらの事柄の多くが、実は西洋文化に深く根ざしたもので、欧米の人にとってはそれが文化の産物であることさえも気づかないものであることが、だんだん見えるようになりました。それぞれの文化には、それぞれの文化が育んだ目には見えない価値観が、生きることに関わる様々な作業に入り込んでいます。そして、日本には、日本文化が育んだ価値観が、日々の作業の中に織り込まれているのです。この視点は、西洋文化や、他の文化圏で育まれた価値観をそのまま適用するのではなく、私達は、私達の文化の価値観を感じ取りながら、作業や作業をする人を理解できるはずであり、また、そうすべきだという思いを確かなものにしました。作業科学は、そのような文化の違いをも含め、人間の理解を深める学問です。

私の中に根付いた「作業」の目と、「文化」の目は、私の中にあった「作業療法士」の目に映るものを、一層豊かにしてくれているように感じます。目の前にいるクライアントを、その人が損なわれた「作業」だけでなく、その人を作り上げてきた「作業」や、その人が置かれている社会の「作業」、その人を育んだ文化の「作業」という目で見つめる。そうすると、クライアントは、より膨らみをもった人として立ち現れます。そして、その膨らみが、治療への様々な手がかりをもたらしてくれます。

私は、作業科学と出会い、そして、作業科学を学び進めるうちに、世界への興味が一層増す思いがしています。今、私は、私が感じている面白さを多くの人と共有できれば、そして、何人かの皆さんが、作業科学に触れることで、眼から鱗が落ちるような経験をし、作業科学を学ぶ扉を開いて下さればいいと願っています。多くの人と、作業のことを語りたい、そう思う日々です。

〈2009年度 日本作業科学研究会研修会〉	
主催	日本作業科学研究会
会期	平成21年5月17日(日) 10:00~12:00 (9:00受付開始)
テーマ	作業、意識、Occupational Presence
会場	社会医学技術学院 (東京都小金井市中町2-2-32) (JR中央線東小金井駅 徒歩5分)
講師	デニス リード博士 (トロント大学 作業科学・作業療法学科教授)
会費	1000円(当日支払)
問合先	詳しくは、日本作業科学研究会のホームページをご覧ください。



身障だより

一宮温泉病院

角田 幸一

前回の広報から始まった「身障だより」。2回目は一宮温泉病院を紹介させていただきます。身体障害領域で働く作業療法士の「他の病院はどんなことをやっているんだろう？」という疑問に少しでも応えられるよう出来るだけ詳しく紹介したいと思います。

当院は昭和56年に開設され、それ以来地域の拠点病院としての役割を担ってきました。平成12年にはリハビリテーション室が増築され、それに伴い作業療法部門も開設されました。1階には外来とリハビリテーション室があり、2階は回復期病棟、3階は一般病棟になっています。

作業療法室は理学療法室に隣接されています。まわりは全て畑で太陽の光を遮るものが無いので、冬でも晴れた日はカーテンを開けていれば暖房が要らないくらい暖かくなります。作業療法室の外には小さな畑「みのる園」があり、患者さんと一緒に野菜作りや草取りを楽しんでいます。

当院の周りにはブドウ畑や桃畑が広がり、毎年春には桃の花が咲き一面ピクン色に染まります。また、近くには「金川の森公園」もあり、そこでの歩行訓練を行うなど緑豊かな環境の中で仕事をしています。

3階病棟からは富士山や南アルプスを見ることができるので、首都圏からの患者さんには大人気です。



～春の一宮温泉病院～

現在リハビリテーション科は理学療法士10名、作業療法士8名、言語聴覚士2名の20名で毎日対象者の方の社会復帰に向けて頑張っています。

一般病棟からの処方では、廃用症候群や慢性関節リウマチ、神経疾患など様々な疾患の方のリハビリテーションを行っています。その為、各疾患の特徴に合わせた作業療法を提供しようと毎日四苦八苦しています。また、入院患者さんの殆どが地元の方なので、家屋調査でご自宅への訪問なども行っています。山梨にはまだまだ昔の日本家屋が多いので、

段差の解消やトイレの改修、外出方法の検討などなど考えることはたくさんありますが、「家で一緒

に生活したい」というご家族の思いに助けられています。



～作業療法室～



～理学療法室～

回復期病棟では首都圏からの患者さんが多く、疾患も脳血管障害がほとんどです。その他には、大腿骨頸部骨折や圧迫骨折の方も入院されています。首都圏からの患者さんが多いため訪問調査を行うのが難しいですが、家屋の見取り図や写真を撮ってきてもらったり、外泊の機会を多くとったりと工夫をしながらみんな頑張っています。

最近では、新しく入ったソーシャルワーカーさんの頑張りもあり、少しずつ地元の患者さんも増えてきています。

一宮温泉病院では、毎週木曜日にはリハビリテーション科内での勉強会、毎週月曜日には作業療法士のための勉強会を行っています。スタッフはとても勉強熱心で、院内の勉強会だけでなく様々な学会・研修会に参加してそれらの伝達講習も不定期で行われています。その為、お互いに刺激し合いながら新しい知識・技術の向上に励んでいます。



～男性比率の高いOT スタッフ～

いかがだったでしょうか？一宮温泉病院の雰囲気は少しは伝わったでしょうか？個性的なスタッフの多い病院ですが、患者さんに一日でも早く満足できる生活を取り戻してもらおうという同じ気持ちで毎日楽しく頑張っています。

老健だより

介護老人保健施設 玉穂ケアセンター 宮地 沙織

作業療法士として働くようになって今年度が3年目になる。入職から日々書類などの雑務に追われ、利用者様に対して充分に対応が出来ないジレンマを抱えながら過ごしてきた。昨年3月から訓練室の常勤職員が自分一人になり、その後非常勤5名（皆、自分よりも経験のある方）と働くことになった。その為、書類や会議などの雑務に追われ、利用者様の対応は非常勤の方をお願いする事が多くなり、『いったい私はこの施設で何をしたいのだろうか…』と思う日々が続いた。そんな中6月に常勤のPTを迎えることになった。経験は私よりも1年先輩であるが、訓練室の中での責任者としての立場は変わる事なかった。複雑な心境の中、仕事の割り振りがうまく出来ないことから、暫くは仕事量も増える一方だった。

年も経験年数も自分より上の方に対して、どんな風に仕事を振ったらいいのか正直今でも解らないという気持ち大きい。また、責任者という立場から上司（事務職）や他職種からの要求も多くなった。その為、自分の行動や発言が、訓練室の意見と捉えられてしまうといった怖さを感じることも多くなった。こんなデメリットな事ばかりで、“もうこんな立場にいるのは嫌だ”と投げ出した気持ちになることもあった。ある時、他職種の方と話をする中で、自分のことを気に掛けてくれていることに気づいた。それまでは『何で私が…』と思い悲観することの方が多かった気がするが、大変なのは自分だけではなくみんな同じで、この立場になったからこそ経験できることも沢山あるのだということに気づいた。今では他職種の責任者をはじめスタッフに支えてもらって仕事が出来ているのだと、改めて感じる事が多くなってきている。

私は働き始めてから、“利用者様ともっと関わりたい”という想いがあり、時間を見つけては現場の様子を見に行くようにしている。これは、日常の業務に追われ満足に利用者様と向き合えていない自分の為でもある。その為、ただ様子を見に行くだけでなく、現場のスタッフが忙しいときは、食事介助やトイレ誘導を手伝いながら、利用者様の様子や表情、他者との関わりなどを見ている。また、関わる時間が少ないからこそ、なるべく多くの利用者様に声を掛けるよう心がけている。この時間は、周りから見たらただの暇な人に見えるかもしれないが、私にとっては利用者様の生活の様子を知る大切な時間となっている。

来年度は介護報酬の改定もあり、年末からなんとなくせわしない。新しい年度を迎えるにあたり、仕事を上手く割り振ることや、書類を要領よく消化していくことが当面の課題となりそうである。作業療法士として働き始めて3年間、私は利用者様や周囲のスタッフとの関わりの中で多くの事を学び、また支えてもらうことで仕事を行うことが出来ていると思う。今後もこの事を忘れずに成長していきたい。



精神科だより

訪問看護室にて

(財)住吉病院 藤原 浩宣

今年度、私事ながら作業療法（以下 OT）室から訪問看護室への異動があった。個人としては、初めての異動で、楽しみ半分、不安半分であったが、お蔭様でここまで何とか継続している。約10ヶ月間の勤務ではあるが感想や思う所を述べさせていただきます。

当院の訪問看護室は、平成18年6月に開設し徐々に増員され、今では私の外に看護師（以下 Ns）3名、精神保健福祉士（以下 PSW）1名が所属している。訪問看護の主な目的は、「利用者様が治療を継続しながら、家庭や地域社会の中で安心して生活できるよう、相談や療養上必要な援助、支援を行うもの」である。

業務としては、スタッフ一人もしくは二人で、利用者様の健康チェックや生活状況の確認をし、その後、世間話をしたり、相談にのったりしている。時には、一緒に散歩やゲームをしたり、料理を作ったり、入浴の支度をしたり、市役所や受診に同行したり、と利用者様の生活の一コマにお邪魔させていただいている。殆どの方は、「退院生活の方が良い。」と言い、ご本人なりに生活を送っている。しかし中には、より精神的・身体的・社会的に健康な生活を送る為に「もっと～できれば良いのでは。」と思われる場面が少なからずある。利用者様の気持ちと生活状況を注意深く観察・評価し、様々な考え方を取り入れながらスタッフ間で話し合い、その方にあった丁度良いアドバイスができるよう、そしてそのアドバイスを気に入ってもらえるよう日々努力している。

他職種で話し合う事で、さすが Ns！なるほど PSW！と思う事は多々ある。OT として明確なものはよくわからないが、「疾病」や「障害」というよりも『生活』へ焦点を当て関わっている。病気であろうか、何であろうか、重かろうか、軽かろうか、より健康的な生活を送るにはどうしたら良いか？そのためにできそうな事は何か？本人の長所・利点は？変われそうな所はないか？といった視点である。

いわゆる“精神障がい者”を地域でケアしようとする流れは、昨今あちこちで聞かれる話である。その中であって、日常業務で実際に OT として“精神科訪問看護”ではどんな援助をしたら良いのか？自分にはどんな支援ができるのか？果たして今日の関わりは良かったのだろうか？など迷う事ばかりである。そんな時は、基本に戻って、目の前の利用者様が困っている事は？何を必要としているのか？その方らしい生活とは？を再確認し、周囲のスタッフと話し合いを持っている。そのような中で OT という資格にこだわらない方が、自然体で仕事ができると感じている。

余談だが、最近ことわざをよく思い浮かべる。“笑う門には福来る”“急がば回れ”“三人寄れば文殊の知恵”などなど、OT の考え方は昔の人の生活の知恵に似ているな、と。

利用者様と信用・信頼関係を築くのはなかなか難しいが、ひよんな事で気さくに話をしてくれるケースもある。何処かに、その人に合うチャンネルがあるはず、と信じて、ニーズが何処にあるか？（言語化されない場合も多いが）それらを注意深く感じ、その方の生活にそっと寄り添う様にして、関わりを持っていきたい。

—第3回山梨県作業療法学会に向けての活動報告—

～『広がりつつながり』をもとめて～

山梨作業療法学会実行委員会
事務局部員 土居 正和

年1回の恒例行事となりつつある山梨県作業療法士学会（以下OT学会）も、来たる4月26日（日）に第3回を迎える運びとなりました。今回は学会のテーマを『広がりつつながり～その人らしさを支える作業療法～』とし、事務局・企画局・演題採択局・編集局・庶務局の五つの運営部を基に53名の委員によって構成され、月1度の全体部会や各部局ごとの話し合いにてOT学会に向けて準備を進めています。実行委員に新たなメンバーを迎え、慣れない作業に戸惑いながらも、第1回・第2回から学会の企画・構成に携わっているメンバーを中心に、講演依頼や学会プログラムの作成・立案、冊子の編集などを行う中で、前回以上にスムーズな進行と活気溢れるディスカッションができる学会にしようと、会議では積極的な意見が飛び交っています。

今年度は特別講演に日本作業療法士協会常務理事の香山明美先生をお招きし精神分野だけでなく、作業療法の多岐にわたる『広がりつつながり』を再認識できればと考えています。更に一般演題を19演題行う他、身障・精神・小児それぞれの分野の教育技術講座を予定しています。普段触れることの少ない分野のOTとの意見交換を経て、自分の接する患者様への観点に対する『広がりつつながり』を展開できればと考えています。

多くのOTの皆様の奮ってのご参加をお待ちしております！！

＜学会運営部 第3回山梨県作業療法学会＞	
主催	山梨県作業療法士会
会期	平成21年4月26日（日） 10:00～18:00（予定）
テーマ	広がりつつながり～その人らしさを支える作業療法～
会場	山梨市民会館（山梨県山梨市万力1830 TEL:0553-22-9611）
対象	作業療法士および関係各種、学生、その他
問合せ先	〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436 春日居リハビリテーション病院 リハビリテーション部 作業療法科 山梨県作業療法学会 事務局 磯野 弘司 TEL:0553-26-4126 FAX:0553-26-4366

活動紹介

事務局

事務局担当理事 甲府城南病院 三瀬 和彦

会員の皆様、こんにちは。今回は事務局の活動紹介をさせていただきます。事務局の活動はあまり目立ちませんが、会を運営するにあたりとても重要な部分であると思います。事務局の活動は、主に①会員管理②財務管理③理事会運営④書類等管理となります。いずれも迅速に正確に柔軟に対応しなければならない仕事で、会長を始め、理事の方々、会員の方々に支えられて何とか業務を遂行しております。以下に各部より、具体的な内容を紹介いたします。事務局として、今後も会員の皆様がより良く県士会活動を遂行していく為に頑張りますので、よろしくお願い致します。

事務局メンバー紹介

事務局長	三瀬 和彦	(甲府城南病院)
管理部	部長 中林 若菜	(甲府城南病院)
	部員 梶山 孝政	(甲府城南病院)
	広瀬 祐子	(山梨リハビリテーション病院)
財務部	部長 長谷川 淳子	(甲府城南病院)
	部員 加谷 真由美	(甲府城南病院) 池田 鉄平 (甲府城南病院)
渉外部	部長 磯野 弘司	(春日居リハビリテーション病院)
福利部	部長 三瀬 和彦	(甲府城南病院)
	部員 宮野 花子	(甲府城南病院) 吉田 尚史 (甲府城南病院)

管理部長 甲府城南病院 中林 若菜

「事務局管理部」といっても、その仕事内容は普段皆さんの目に触れる機会ほとんどないので、ぴんとこない方もいらっしゃると思います。そこで、今回は簡単に仕事内容を紹介させて頂きたいと思います。

管理部の主な仕事としては、県士会員の情報管理（入退会・変更・休会）内外の公文書の処理、他関連団体との情報交換などを行うことです。会員情報の変更や公文書の依頼などに対し、なるべく迅速かつ正確に対応するよう心がけており、各部や県士会全体の業務が円滑に行えることや、会員の皆様に情報が発信できるよう、縁の下の力持ち？として頑張っています。

では、公文書の発送や会員管理をどのように行っているのか、その流れを簡単に紹介したいと思います。

○公文書発送までの流れ

1. 県士会各部や関連団体などからの公文書の依頼受託
2. 公文書の作成・管理
3. 会員や関連施設への発送手続き→発送

○会員管理について

1. 会員からの届け出を受理（入退会・変更・休会など）
2. 県士会専用のパソコンにて、会員情報の追加や削除を行う
3. 名簿やタックシールの作成・管理（公文書を発送する際などに使用します）

管理部からのお願いです。入退会・移動・休会などをされる際、必ずその届出を事務局管理部あてにお知らせ下さい（所定の用紙を使用）。各部や県士会からの郵送物・連絡事項などの情報を会員の皆様にお知らせするためにも、ご協力をよろしくお願い致します。

財務部 甲府城南病院 長谷川 淳子

財務部では、会費の徴収を行い、士会の資産の維持・管理や各局・部の予算収支管理、次年度の予算作成を行っています。

県士会の収入は会員からの会費収入、学術局や事業局などの事業収入、日本作業療法士協会や山梨県リハビリテーション病院・施設協議会などからの補助金収入、広告収入などからなります。これらの会費は、学術局の研修部や生涯教育部が行う研修会や学会運営部が行う学会の運営費、または、広報局の士会ニュースや保険局からの各種保険の情報提供、さらには、士会員のための団体保険などの福利厚生に当てられ、会員の方に還元できるものが多く占めています。今後もより良い士会にしていくためにも、会費は毎年必ず納めていただけるよう、お願い致します。

渉外部 春日居リハビリテーション病院 磯野 弘司

渉外部は主に当士会と外部組織との連絡や交渉、把握・管理等を行う機関となります。当士会は公的機関（県・市町村）を始め、他県士会、他医療機関団体等々多くの関連団体と関わりをもっており、今後も他団体との有益な関わりを持ち、当士会の発展に努めていきたいと考えております。

福利部 甲府城南病院 三瀬 和彦

福利部は、今年度より新しく新設された部となります。会員の皆様に安心して県士会活動を遂行して頂く為に必要な調整等を行うことが役割となっております。今年度は、その一つとして、「団体総合保障制度費用保険」に加入致しました。詳細は県士会ホームページをご参照下さい。今後も皆様のご意見を参考にしながら、当士会の福利体制の充実を図っていききたいと考えております。

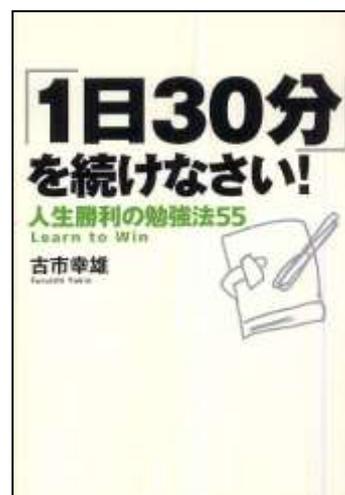


最後に、山梨県作業療法士会は360名を超える団体となっており、再来年には30周年を迎えます。この多くの会員の皆様が繋がりが合い、支え合い、そしてそれは大きな力となり広がっていきます。事務局としてその基礎を支えていけるような役割を果たしていきたいと考えております。皆様今後ともよろしくお願い致します。

BOOK WATCHING

「1日30分」を続けなさい！
人生勝利の勉強法55

古市 幸雄 著
マガジンハウス 1,365 円



「仕事で忙しすぎて自分の勉強ができない」

私自身がよく使っていたセリフでした。今の自分よりも一歩発展した仕事をやりたい気持ちはあるのに、それに反して日常診療は忙しく、自分の勉強どころではない！・・・という状況にありました。その結果、勉強したいと思ったことは溜まる一方で、積極的に実践する方向には向かいませんでしたし、そんな状態の自分では患者さんの訓練プログラムまでもどこかマンネリ化していたと思います。

この本に出会ってから、少しずつですがこの状況が改善の方向に向かったことを今でも覚えています。読まれた方も多いかとは思いますが今回、この場をお借りして紹介させていただきます。

人生勝利の勉強法！とうたってあるこの本を紹介するにあたり、題名は野心にあられ、どこか怪しげな印象を受けるのですが、中身は私のような勉強の習慣のない人を前提に「勉強時間の捻出方法」や「賢い時間の使い方」が具体的に紹介された自己啓発本です。現状に不満・不安を抱く忙しいサラリーマン向けに書かれているのですが、私にも内容のほとんどが該当しましたし、大変参考になりました。

一日30分の勉強を続けていると年間300日で150時間（丸9日間）、10年で1500時間（丸88日）の勉強量になります。この場合の「勉強」とは読書を含め自分を1段階高いレベルに向上させるであろうあらゆる活動を含みます。10年間で1500時間を勉強に費やした時とそうでない時では結果が大きく違ってきそうですね。

「30分？そんな時間なんてない」と思うなら朗報があります。一番削りやすい時間がなんといってもテレビです。ちなみに、テレビを毎日二時間（日本人の平均テレビ視聴時間）見る人は1年間で2か月分（61日）も浪費してしまいます。騙されたと思って1週間、いや3日間テレビを見ないでみてください。自分自身も体験したのですが突然「手持ちぶさた」を感じます。そうすると、不思議といつものは絶対やらないこと（溜まっていた本・資料を読む）でもやれたりします。

これは私個人の意見ですが、基本的に時間は誰もが「ない」のではないのでしょうか。時間は「つくる」「捻出する」ものだと私なりに思うことがあります。自分の時間をうまく捻出できたのなら、今の生活が劇的に変化する可能性もあります。

一日30分。何か始めてみませんか？

注）勉強の仕方、時間の使い方は人それぞれですので参考程度にお願い致します。

（甲府城南病院 助川 雄紀）

理事会だより

平成20年度11月期 山梨県作業療法士会理事会

日時：平成20年11月18日（火）

会場：山梨リハビリテーション病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、飯野、青木、黒崎、古屋、松田、磯野、山田、工藤；計11名。

1、副会長（広田）

- ①都道府県連絡協議会より、現在のOT協会ホームページに士会広報担当者用の掲示板を新設した。各県士会広報担当者が担当となり、他都道府県との連絡に使用していく。当士会は飯野広報局長にて承認。

2、事務局（三瀬）

- ①日本作業療法士協会倫理委員会より、県士会倫理担当窓口の確認について受託。
担当：古屋豊美委員長

3、広報局（飯野）

<企画編集部>

- ①来年度6月より広報誌の名称を変更予定。

4、事業局（野田・山田）

<保険医療福祉部>

- ①ジャンパー10枚、ポロシャツ20枚を作成。

5、常設委員会（古屋）

<福祉用具委員会>

- ①委員長：関谷宏美氏（甲州リハビリテーション病院）

6、臨時委員会（磯野）

<法人化準備委員会>

- ①今後のタイムテーブルについて

- 1) 平成22年4月より法人化を予定。
- 2) 今年中に定款の素案作成。
- 3) 平成21年1月より理事会にて定款を詰めていく。
- 4) 平成21年8月に県士会員への説明会開催。
- 5) 平成21年9月に定款案を決定。
- 6) 平成22年1月 臨時総会の開催。定款の決議と解散の決議。
- 7) 平成22年2月 公証人役場にて定款の認証をとる。

- 8) 平成22年3月31日に解散

- 9) 平成22年4月1日より 新社团法人として始動

平成20年度12月期 山梨県作業療法士会理事会

日時：平成20年12月15日（月）

会場：山梨リハビリテーション病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、川崎、佐田、飯野、磯野、山田、松田、黒崎、工藤、古屋；10名

1、学術局（黒崎）

<生涯教育部>

1) 平成20年11月29,30日で生涯教育推進委員会へ参加。

平成21年度1月期 山梨県作業療法士会理事会

日時：平成20年1月14日(水)

会場：山梨リハビリテーション病院 作業療法室

出席者：三瀬、飯野、青木、磯野、野田、山田、松田、黒崎、工藤、古屋；10名

1、常設委員会(古屋)

<倫理委員会>

①1月10日(土)研修会開催

テーマ；職業倫理

講師；佐藤陽子先生

参加者；39名

土曜開催であったため、参加者が少なかった。来年度再検討していく。

2、臨時委員会(磯野)

<法人化準備委員会>

① 定款の案が出来次第、伝達していく予定。

<災害対策準備委員会>

② 現状報告：災害発生時、県士会の動き方のマニュアルを来年度を目処に作成予定。



急性期からの
ハンドセラピーをお手伝いします。



*** スプリント ***
 アクアプラストをはじめとする6種類の
 スプリント素材や、作成例を動画で紹介
 するCD-ROMなど豊富なバリエーション。

*** エクササイズ ***
 術後早期のROMトレーニングに。

スプリント作成ガイド
 手帳・手首用CPM
 PSB

酒井医療株式会社
 国分寺営業所
 国分寺市南町 2-1-39 セラミカ | 〒185-0021
 Tel: 042-320-2680
 www.sakaimed.co.jp

ご家族への思いやりを、確かなカタチに。安全な製品を 安心のサービスで全国へ。



在宅介護は
お任せ下さい！

**フランスベッドメディカルサービス
株式会社 甲府営業所**
 〒400-0031 甲府市丸の内3-33-5
 TEL 055-235-9281

わたしたちは人生を毎日楽しんでいただけるよう **3Life** をサポートいたします。

Life ① 生命

「痛い」「熱い」など、生物としての感覚レベルでの適合

お客さまひとりひとりの身体の形・機能に合った製品を心をこめて選び、作り、お渡しています。

Life ② 生活

「食事」「睡眠」「移動」など、人間としての日常生活レベルでの適合

さまざまな提案をすることにより、生活シーンごとに生じる問題を解決し、より快適な暮らしが出来るようお手伝いをしています。

Life ③ 人生

「就職」「社会的活動」「レジャー」など、個人としての自己実現レベルでの適合

仕事や趣味・スポーツなど色々なことにトライし、自分らしさを求めるお客さまを深い経験と高い技術力でサポートしています。

義肢装具



車いす



ゲイトソリューションデザイン



PPSスイッチ



コミュニケーション機器



マイスプーン



川村義肢株式会社 山梨営業所 〒406-0024 山梨県笛吹市石和町川中島188
 TEL 055 (262) 9630 FAX 055 (262) 0787



帝京科学大学
Teikyo University of Science & Technology.

医療科学部 作業療法学科 開設!

作業療法学科 出発進行
Apr./2008

生命環境学部、こども学部との
コラボレーション



帝京科学大学 医療科学部 作業療法学科・理学療法学科
 生命環境学部 生命科学科・アニマルサイエンス学科・環境科学科
 こども学部 こども学科

〒409-0193 上野原市ハツ沢2525 TEL 0554-63-4411 (代表)
 JR中央線 上野原駅からバス8分 / 中央高速 上野原ICから車7分

Official website : www.ntu.ac.jp



介護用品/福祉用具販売 住宅改修 車椅子オーダーメイド
介護保険レンタル

やさしさとおもいやりお届けします
EST.1993

株式会社 サシカイゴ

玉 穂 店 中央市若宮13-4 電：055-274-1152
シルバー店 甲府市富士見1丁目3-32 電：055-251-1121

やさしさ・おもいやりを…

GC Good Care, LTD. 有限会社 **グットケア**

当社は在宅福祉を支援する会社です。
下記事業所に、お気軽にご相談ください。



◎住 吉・訪問介護・居宅支援 電055-236-6006
(本部)・福祉用具貸与・販売 住宅改修
○朝 気・デ'イビ'センター「笑くぼ」電055-236-6336
○東光寺・訪問介護 電055-236-6556
・デ'イビ'センター「よつ葉」電055-236-6344

健康科学大学

◆理学療法学科 ◆作業療法学科
◆福祉心理学科 ・社会福祉コース・精神保健福祉コース・発達臨床心理コース

〒401-0380 山梨県南都留郡富士河口湖町小立 7187
TEL 0555-83-5240 FAX 0555-83-5100 URL <http://www.kenkoudai.ac.jp>



麻痺筋の機能回復トレーニングに — **NEW MODEL**

PAS system

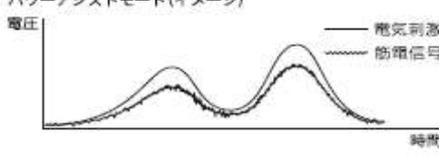
Power Assist Stimulation system PASシステム GD-601
PASシステムGD-601 認証番号219AGBX00074000




より繊細な治療を可能にする
パワーアシストモード

筋電に応じた電気刺激を与え、随意運動をアシスト。「コップをつかむ・離す」等の日常生活に即したリハビリが行えます。

パワーアシストモード(イメージ)



電圧
筋電信号
時間

研究開発ご協力先:慶応義塾大学 月が瀬リハビリテーションセンター
運動介助型電気刺激装置の開発と脳卒中片麻痺患者への使用経験
村岡 慶裕 他 理学療法 第31巻1号 29-35頁(2004)

デモのご希望は、下記オージー技研営業所へご連絡ください。

OG オージー技研株式会社

本 社 / 〒703-8261 岡山市海吉 1 8 3 5 - 7 TEL(086)277-7181 FAX(086)274-9072
<http://www.og-iken.co.jp/>

営業所/ 札幌 電(011)841-9777 盛岡 電(019)834-0901 仙台 電(022)308-6477 千葉 電(047)458-6061 埼玉 電(048)885-0980 東京 電(03)3822-8011 神奈川 電(045)714-9352	新潟 電(025)285-0210 静岡 電(054)237-5711 長野 電(0263)40-2755 名古屋 電(052)587-2290 金沢 電(076)233-2765 大阪 電(06)6385-1525 神戸 電(078)978-1680	岡山 電(086)276-4384 高松 電(087)837-9055 広島 電(082)832-2788 福岡 電(092)712-1518 熊本 電(096)389-6667 鹿児島 電(095)643-5201 鹿児島 電(099)285-7676
--	--	---

休日受付コールセンター
0120-33-7181
受付時間 上:9-19時 年末年始
受付時間 18:00-18:00
※FAX、郵送での問い合わせはご遠慮ください。

山梨県作業療法士会 各種申請書について

- 入会申請書
- 退会届
- 登録変更届
- 休会・復会届

上記の各申請書を山梨県作業療法士会ホームページからダウンロードして頂き、下記まで、郵送又はFAXにてご連絡ください。もしくは直接、下記連絡先までご連絡頂きますようお願い申し上げます。

連絡・郵送先

山梨県作業療法士会 事務局 管理部

〒400-0831 山梨県甲府市上町 753-1

甲府城南病院 リハビリテーション部内

FAX : 055-241-8660 (代) TEL : 055-241-5811 (代)



編集後記

炊飯器が壊れました！！先月は洗濯機....年度変わりには新生活ができそうです.....ハイ。 (内)

私も炊飯器を購入しました。一口に炊飯器といっても、いろんな種類があるんですねー。 (い)

私も洗濯機が壊れました、去年からですが....。洗濯の後には必ず「コロコロ」をする習慣が身に付いてきました。このまま動かなくなるまで使い続けてやろうかなあ〜洗濯機。 (つの)

最近、フットサルなどのスポーツに励んでいます。来年の健康診断は、目指せC判定！！ (米)

最近自分の健康が気になりはじめ、マクロビ食を始めようかと....お菓子やジャンクご飯を我慢するストレスがかかって体に悪い気もするので、気が向いたときだけです (塚)

また出会いと別れの季節がやってきます。新人さんが入ってくるとびに「若い！！」と一言。若返ることはできませんが、できるだけ若くいたいと思うお年頃です。 (み)

当たり前の生活を当たり前で営むことって大変だなあ、と思う今日この頃です。 (ふ)

最近四季の変化があまりなく、さみしい気がします。春のお花見は楽しめるといいな (な)

発行人：山本 伸一

編集人：飯野 知一・勝俣 奈央子・三枝 美和・塚田 有香・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・米山 敦・河野 香

発行所：山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

山梨厚生病院 〒405-0033 山梨県山梨市落合 860 TEL 0553-23-1311 FAX 0553-23-0168

印刷所：エンドレス (株) 〒405-0014 山梨県山梨市上石森 123 TEL 0553-22-4574